



地域のシンボルでもある学院内チャペル

大阪信愛学院小学校

小学生・中学生・高校生・大学生の参加するメタバー空間の創出
—学習意欲の向上を目指して—

メタバーで広がる新たな学び

異校種間交流と海外交流

同一キャンパス内に保育園・幼稚園から大学までを擁する大阪信愛学院の小学校では、2023年度から全国でもまだ事例が少ない、メタバー（仮想空間）を用いた教育を実施している。導入事例が少ないのは、初期費用など予算的な制約が障壁となっているためだが、その点に関して担当の高橋脩教諭は「助成を受けたことで諸環境が整いました」と導入経緯を明かす。

具体的に実践しているのは、連携するフィリピンの学校の児童らとアバターを動かしながら英語でフリートークなどを体験する「海外交流」と、図工の授業で作成した作品を画像化してメタバー上に展示する「信愛博物館」だ。信愛博物館は学院内の大学生が作品にコメントを残せる異校種間交流の場となっている。



大阪信愛学院小学校の児童たち。背後のディスプレイに映るのがメタバーの交流空間



「信愛博物館」への作品展示は5年生全体で行った



●実施担当

高橋 脩 教諭

●活動のモットー

考える過程を大事にすること、言葉の意味や関連性を明確にして教えること、一授業で一つの驚きを入れること、を意識している。

メタバー活用さらなる可能性

メタバーを体験した児童からは、「ここが作品のいいアクセントになっている、とコメントをもらって嬉しかった」（6年田中景伶さん）といった感想や、「仲良くなったフィリピンの友達に会いに行きたい」（4年吉野愛唯さん）などの意見が相次いだ。

児童たちの前向きな声を受けた高橋教諭は、「たとえばアバターで2人ひと組になってゲームをするなど、通常のリモート授業ではできないことがメタバーでは可能になります。また、交流空間において周囲の会話を聞くだけ、ということもできるので、積極的な交流が苦手な児童が一步を踏み出すスモールステップにもなり得ます」とメタバーのさらなる可能性に言及する。続けて、「将来的には、異校種間で進路相談などもできる交流の場を設置したり、国内他校と連携したりすることも考えていて、すでに複数の学校と具体的な話を進めています」と、未来の教育環境の一端を教えてくれた。（複数校連携助成2年目）



「海外交流」の空間では英語でゲームなども行える



フィリピンの町を探索するライツツアーの様子



「信愛博物館」の展示作品にコメントをつける大学生

学校概要



キリスト教の精神に根ざした教育理念と「3つのけん（健・謙・賢）」の教育目標のもと、英語やICT教育にも力を入れる私立小学校。

設立：1952年

生徒数：324人

所在地：大阪府城東区古市2-7-30

この活動は、中谷医工計測技術振興財団の「科学教育振興助成」により行われています。



公益財団法人

中谷医工計測技術振興財団 〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目2番2号 アートヴィレッジ大崎 セントラルタワー8階

シスメックス株式会社創立者の故・中谷太郎氏が私財を投じて設立。BME(Bio Medical Engineering)分野の発展を願い、表彰事業をはじめ各種研究助成、若手研究者支援や国際交流事業を展開。さらに、すそ野拡大のため、小中高校生の科学探究活動に対し助成事業を行っている。2024年に設立40周年を迎えた。

中谷財団

検索

